

2026年(令和8年)

第97号

(5月4日)

平安だより

HEIAN letter

発行所：立正佼成会 京都教会

発行責任者：渉外部長 澤村悦玄

編集委員長：渉外広報 植田恭司

〒605-0041 京都市東山区三条東町 230

TEL (075)762-2211 FAX (075)762-2266

令和8年 諸国客衆商売繁昌祈年祭 ～「一隅を照らす」心構えで～



昨年に続き、今年の諸国客衆商売繁昌祈年祭が4月19日、教会法座席で行なわれ多くの社業発展を願う会員が参集しました。

読経供養の導師を東教会長が務め、前唱文の中で201社の社名を読み上げました。中には大企業からヘアサロンや市役所もあり、各社の繁栄を願うことが出来ました。



東教会長はお言葉の中で、全国の教会で実施している行事ではないとしながら、京都は町衆の力による繁栄があるとし、“繁昌”とは『公明正大に社業が発展する』ことを願い、「どこまでいっても法華経の実践に尽きる」と述べました。『祈年』の訓読みは『としごい』と言い、本来は神さま仏さまに五穀豊穡を願うことであって、今回の祈年祭は「あまねく取り引き先が栄え

るよう、そして取り引き先と自社の双方が栄えるように』と昨年は150社であったものが今年は201社となり、相手先を思って徐々に広まってきていると喜びをかみしめました。また、4月の開催は上賀茂神社の土解祭（どげさい）に倣っているとし、凍っていた土が解けて新しい種を撒き豊作を願う神事からきているとしました。

続いて、今年の“丙午（ひのえうま）・一白水星”の年回りについて解説しました。丙午の“丙”も“午”も「火」の性、足元の人間は「水」の性のため、大きな変化があって当たり前、激しいことが起こって当たり前の年だとし、商売に至っては「変革」の年、上振れ・下振れをしながら、その先に新しいものが生まれるとしました。そのために、急速な展開に翻弄されないように冷静に判断していくことの大切さ、成功する・しないが激しく表れるため、「激しい変化は新しいものが生まれるという受け止め方が大事です」と心構えを述べました。

また、一白水星の年は“物事を表面で見ず、本質を見抜く力が必要”であることから、顧客が求められているものを見つけることで成果が出るため、マーケティングで深く掘り下げていくことや顧客との信頼関係・人脈作りの重要性もあるとしました。

注意することとしては、①見栄体裁を控える・捨てること、②情熱だけで突っ走らないこととし、“炎が水を沸騰させるような年回り”は“その熱量を新しいものに挑戦、お客様のニーズに合わせる”ことが大事だとしました。

最後に「商売する方は『一隅を照らす』ことが大事で、自分の巡り合っている仕事に精一杯に打ち込み、その役割を果たしていくこと。仕事に打ち込むことで光を照らし、燈明のように光を発し、その光に人々が寄ってくる自分になれるように、庭野会長のご法話をもとに精進しましょう」とまとめました。

京都教会ビデオレター5月号 配信中 ～東教会長発～

ビデオレター5月号が京都教会のホームページで公開されています。パスワードは各支部長にご確認下さい。
<https://rkk-kyoto.jp/archive1/20260501>



左記のQRコードをスマートフォンで読んで、ご覧頂くことも出来ます。地区単位、各家庭においても視聴し、1ヶ月の修行目標とさせて頂きましょう。

令和8年、私たちは「仏さまと出会い サンガと語り合っ て 心田を耕そう」を実践して参ります。
 京都教会のホームページもご覧下さい。 <https://rkk-kyoto.jp/> (右のQRコードからご覧頂けます)



降誕会 ～日曜開催で多くの青年層が集まる～

京都教会では降誕会の式典が4月12日午前10時30分から行なわれました。今年はより多くの方に式典に参加してしてもらおうと4月8日から12日の日曜日に変更されたものです。

教会正面玄関には3月末から“のぼり旗”を設置し、釈尊降誕を市民にも啓発。法座席には“お釈迦さまの塗り絵”の展示。さらに、降誕をお祝いする色屏風も置かれ、新一年生のご家族が写真撮影をされるなど、内外でお誕生を心からお祝いしました。



式典では、サリーを身にまとった新小学一年生と学生部・女子部による“献花の儀”、釈尊降誕の様子をまとめた“デジタル紙芝居”に始まり、読経供養では導師の東教会長が当日参加出来なかった新小学一年生も含め全員の名前を読み上げるなど、手作り感あふれる式典になりました。稚児讃嘆文では4人の稚児が“一生懸命に”お釈迦さまへの感謝のこぼれ”を読む姿に法座席から温かい拍手が送られました。

東教会長はお言葉のはじめに、募集した“塗り絵”の功德について、大人は頭の働きが良くなること。子供は生き生きと塗ることで創造性を養うことだとしました。続いて、「はなまつり」が奈良時代から続いていることやお子さんが健やかに育つことを願う日であるとし、私たちは仏さまの智慧を授かっており、その感謝の念が大切だと意義を述べました。また、8日に本部大聖堂で行なわれた降誕会式典の庭野会長のご法話についてふれ、大事な要点を振り返りました。1つに『自分の命を尊ぶ日であり、尊ぶとは価値を重んじる。相手の命も重んじること』。2つに『自分の人生は自分しか歩めないこと』。3つに『人生は1回限りであって、人生にリハーサルは出来ないということ』。そして、宇宙において自分はかけがえのないたった一人の存在であることをかみしめましようまとめました。

祇園祭ボランティア勉強会・説明会 ～京都府モラロジー協議会にて開催～

京都・祇園祭ボランティア21は4月11日(土)、上京区の京都府モラロジー協議会にて今年度のボランティア勉強会・説明会を開催しました。加盟団体の代表者が集合、京都教会青年部からも参加しました。当ボランティア会長の挨拶後、公益財団法人祇園祭山鉾連合会理事長の木村幾次郎氏より、祇園祭についての講演がありました。



木村氏は講演の中で「祇園祭巡行路」について述べ、山鉾巡行は1955年(昭和30年)まで四條烏丸を出発し四條通を東向きに巡行、八坂神社御旅所直前の四條寺町で方向転換して寺町通を南下し、寺町松原で方向転換して松原通を西向きに巡行、松原烏丸で解散する『右回り』ルートだったとしました。



その後1956年(昭和31年)からは四條烏丸を出発、四條通を東向きに巡行し、八坂神社御旅所直前の四條寺町で方向転換して寺町通を北上、寺町御池で方向転換して御池通を西向きに巡行し、御池烏丸で解散する『左回り』になったとしました。これは現存の西京極の対となることになる寺町通りが東京極(ひがしきょうごく)と呼ばれていた歴史に繋がります。

そして1961年(昭和36年)からは四條烏丸を出発、四條通を東向きに巡行し四條河原町通で方向転換して河原町通を北上、河原町御池で方向転換して御池通を西向きに巡行する現在の左回りの山鉾巡行ルートになったとしました。

講演後は、ボランティア委員会から今後の活動スケジュールが発表され、その後、各加盟団体の自己紹介を行なうと、“今年も力を合わせて祭を支えよう”という雰囲気に入れ、勉強会・説明会が終了しました。